

# ○ 調査結果の概要

## 1. 貿易企業の概要

### ・貿易実績のある企業170社

平成19年（暦年）における輸出企業は96社（前年94社）、輸入企業は122社（同137社）、これらの内で輸出入ともに行っている企業は48社（同46社）で、貿易企業は170社となった。所在地別では、松江市が31社と最も多く、続いて出雲市27社、浜田市24社の順となった。

## 2. 貿易実績

### ・島根県の平成19年貿易額は、前年比8.3%増の5,311億円

県内企業の平成19年（暦年）の貿易額（輸出入額）は5,311億円（前年4,906億円）であり、前年比8.3%増となった。なお、同年の日本の貿易額（157兆674億円、前年142兆5,905億円）の伸びは10.1%となっている。

県の輸出入バランスは、輸出額2,754億円（前年2,472億円）に対し、輸入額は2,557億2千万円（前年2,434億2千万円）となっており、197億の輸出超過（前年は38億円の出超）となった。「電気機器・同部分品」の輸出が堅調に増加したこと、「鉄鋼」の価格高騰による輸出額増が原因として挙げられる。なお、日本の同年輸出額は83兆9,314億円、輸入は73兆1,359億円と10兆7,955億円の出超である。

### (1) 輸出の実績

#### ・輸出額は前年比11.4%増、市場別ではアジアに56.0%、欧米に38.5%

平成19年（暦年）の県内企業の輸出額は2,754億円（前年2,472億円）であり、対前年比11.4%の伸びを示した。欧米・アジア向けを中心とした「電気機器・同部分品」の輸出が堅調に増加したこと、「鉄鋼」の価格高騰による輸出額増が原因として挙げられる。

なお、この輸出の伸びは日本全体の輸出額（2006年75兆2,462億円、2007年83兆9,314億円）の伸び11.5%とほぼ同率の伸びとなった。

輸出を地域別にみると、アジアが1,542億5千万円（構成比56.0%）、ヨーロッパが565億8千万円（同20.5%）、北米が494億6千万円（同18.0%）となっており、この三地域で全体の94.5%を占めている。

前年の伸びと比べると、アジア向けには0.5ポイント増、ヨーロッパは0.1ポイント減、北米は0.9ポイント減となっている。また、国別輸出額でみると、1位アメリカ、2位ドイツ、3位シンガポール、4位中国、5位韓国となっている。

品目別では、「機械、電気機器及び同製品並びに部分品」が1,802億7千万円（構成比65.5%）と最も多く、次いで「卑金属及び同製品」が562億8千万円（同20.4%）となっており、両品目で輸出全体の85.9%を占めた。

輸出形態では、間接輸出が2,199億9千万円（構成比79.9%）、直接輸出が114億7千万円（同4.1%）、間接輸出と直接輸出の併用が439億4千万円（同16.0%）となっており、間接輸出の割合が高くなっている。

輸出の積出港をみると、最も多かったのは神戸港で全体の55.0%、次いで関西国際空港が21.5%と続いている。なお山陰地方の港の積出は、浜田港3.8%、境港0.8%となっている。

品目別、形態別、積出港は何れも前年の傾向とほぼ同様となっている。

## (2) 輸入の実績

### ・輸入額は前年比5.0%増、輸入全体の60.3%が機械・電気機器製品・部品

平成19年（歴年）の県内企業の輸入額は2,557億2千万円（前年2,434億2千万円）であり、対前年比5%の増となった。「電気機器・同部分品」の輸入が伸びたこと、また「エネルギー原料」の輸入量は減ったものの、価格高騰による輸入額増が原因として挙げられる。

なお、日本全体の輸入額（2006年67兆3,443億円、2007年73兆1,359億円）は8.6%の伸びとなっている。

輸入を地域別にみると、アジアが1,703億1千万円（構成比66.6%）と最も多く、オセアニアが238億1千万円（同9.3%）と続いており、両地域で全体の75.9%を占めている。国別輸出額でみると、1位中国、2位オーストラリア、3位フィリピン、4位チリ、5位シンガポールとなっている。

品目別では、「電気機器・同部分品」が1,532億6千万円（同59.9%、前年の構成比は61.2%）と大きな伸びを示し最も多く、次いで「石油、石炭など鉱物性燃料類」が273億2千万円（同10.7%、同12.5%）、「鉄鋼」が243億9千万円（同9.5%、同6.7%）となっている。前年と比べると、鉄鋼の輸入が伸びた形になっている。

輸入形態は、間接輸入が1,916億8千万円（同75.0%）、直接輸入が572億6千万円（同22.4%）、間接輸入と直接輸入の併用が67億8千万円（同2.6%）となっており、間接輸入の割合が多かった。

輸入を荷揚港別にみると、最も多かったのは成田空港で全体の58.2%（前年59.1%）を占めた。なお、山陰地方の港の荷揚げは、浜田港1.5%、三隅港10.3%、境港6.7%となっている。

## 3.海外直接投資

### ・投資先は中国が全体の63.9%

海外への投資案件は全体で24社36件（前年24社39件）となっており、投資先を国別にみると、中国23件、アメリカ4件、タイ2件、韓国、台湾、香港、フィリピン、インドネシア、オランダ、ロシアが各1件となっており、件数比で中国が63.9%、中国を含むアジアが83.3%を占めている。

形態別では独資15件、合弁15件、駐在員事務所3件、支店2件、その他1件となっている。

## 4.外国企業との提携

### ・提携先の上位は、中国、韓国、台湾

県内企業の外国企業との提携は全体で25社50件（前年26社50件）あり、提携先を国別にみると、中国が19件と最も多く、次いで韓国10件、台湾6件、アメリカ3件、マレーシア、ドイツ各2件、シンガポール、インドネシア、イギリス、オランダ、イタリア、カナダ、メキシコ、ペルー各1件となっている。

地域別にみると、アジアが39件で78.0%を占め、北米8.0%、ヨーロッパ8.0%となっている。

形態別では、委託加工貿易28件、販売代理店契約10件、技術供与9件、その他3件となっている。